

論文・レポート作成のための文献

1. 論文について

研究は、まずは論文として発表される。また、論文になったもののうち一部しか書籍化されない。したがって、参考文献は、論文を中心とすべきである。

論文は、注が付いているものであり、そうでないものは論文の体裁を取っていても、学術論文とは言えない。ここで言う、論文とは、もちろん学術論文のことである。

1.1. 日本語論文について

論文が掲載される媒体は、学会誌、大学・研究機関等の紀要（大学およびその内部組織等が発行する定期刊行物）、大学/研究機関等の不定期の研究報告書であり、一般雑誌（『世界』、『中央公論』、『エコノミスト』、『週刊新潮』、『SAPIO』等）に掲載されることはほとんどない。

1.2. 英語論文について

社会科学分野では、依然として、日本の研究者の多くは、日本語の論文を日本で発行される媒体に掲載しているため、英語論文の執筆者は、主として外国の研究者である。

ロシアおよび旧ソ連地域を対象とした社会科学分野の研究雑誌で、最も著名な雑誌のタイトルは、*Europe-Asia Studies, Post-Soviet Affairs* である。どちらかという、前者が政治系、後者が経済系である。しかし、英語論文は、いわゆる電子出版・コンピューター検索が可能となった現在では、雑誌そのものを読んだり、雑誌そのものから論文をコピーする機会はほとんどなくなっているため、雑誌のタイトルはあまり意味がなくなっているとも言えるが、それでも、上記 2 誌のステータスは依然として高く、よい論文が掲載されているため、コンピューター上で、上記 2 誌の目次を遡ってたどっていく作業は有益である。

1.3. 論文検索について

上智大学ホームページ>情報検索の順でクリックすると、データベース一覧が出る。その中で、論文検索に有用なのは、①上智大学電子ジャーナル検索、②Cinii Articles（日本の論文をさがす）、③EBSCOhost（外国雑誌全文・抄録・索引）、である。

①は雑誌タイトル（ほとんどが洋雑誌）で検索し、②および③はキーワードで検索する。

1.4. ロシア語雑誌について

電子化されている雑誌は英語雑誌が多く、日本語やロシア語のローカル言語の電子化は遅れており、上記 1.2.③で、ロシア語論文がヒットするのは難しい。

ただし、不幸中の幸いは、ロシアの学術雑誌は、それほど種類が多くなく、主要な雑誌はすべて日本の国内諸機関で定期購読されている。政治分野では、*Полис*（上野が個人購読中）などが著名である。

2. 書籍について

2.1. 日本語の書籍について

2.1.1. 駄本と学術的書籍との見分け方

日本の出版事情（出版ビジネスの状態、出版活動に対する公的助成の状況など）から見て、一般書店に並べられている書籍は玉石混淆であり、どちらかと言えば「石」（駄本）が多い。出版助成がない場合、出版社は売り上げが一定以上ないと利益を上げられないため、専門家や学部専門課程の学生を対象とするのではなく、一般読者を想定した内容としなければならない。したがって、ロシアに関係する書籍の多くは一般読者が手に取ってくれるようなセンセーショナルな、あるいは既存のステレオタイプ（ロシアは暗い、怖い、寒い、不安定、プーチンは強権的等々）の枠内の、テーマや内容を扱うものが多い。他方、学術的な書籍は、出版助成がなければ出版できない。

したがって、参考になる書籍を探そうとする場合、駄本と学術的な書籍とを見分ける力が必要である。駄本と学術的な書籍を見分ける最善の方法は、注の有無である。注はないが、参考文献一覧がある書籍は、

駄本の場合もあるし、良書の場合もあるが、良書ではあっても、注がなければ学術的書籍とは言えない。

2.1.2. 単著と、各章の著者が異なる共著または論文集タイプの書籍

学術的書籍で、単著は少なく、多くの学術的著作は、編者がいて、複数の著者がいるものが多い。いわゆる共著または論文集タイプのものである。全体としてまとまりがあるものは少ないが、共著または論文集タイプの書籍の個々の論文は学術的レベルの高いものが多いので、参考になる場合が多い。

2.2. 英語の書籍について

英語の書籍の駄本と学術的著作との見分け方、学術書は単著よりも共著または論文集タイプの書籍が多いといった事情は、日本語の書籍と同様であるが、英語の書籍はグローバルなマーケットを相手にしているので、出版事情は日本語の書籍の出版事情とは全く異なり、比較的駄本は少なく、学術的書籍が多い。ただし、現物を書店で手にとって購入することが難しく、アマゾン等の通信販売で購入することが多いので、注の有無などを事前に確認することができない場合が多い。したがって、英語の書籍は、購入するよりも、とりあえずは図書館等で借りて読むことをすすめたい。

2.3. ロシア語の書籍について

ロシアの出版事情は、英語の書籍の出版事情と日本語の書籍の出版事情の中間的などところにあるが（ロシア語が、英語ほどグローバルではないが、日本語ほどドメスティックではないため）、分野によって駄本が多い分野とそうでない分野があり、現代政治事情・経済事情の分野は、残念ながら、比較的駄本が多い分野である。理由は2つあり、1つはロシアあるいは旧ソ連地域の政治・経済研究のレベルが全体的に低いこと（「低い」というのが言い過ぎであるとするれば、自分たちの国や政治を客観視できない、ということ）、もう1つは新聞・雑誌ジャーナリズムが日本などに比べて脆弱なため、ジャーナリスティックなテーマや内容の書籍が多いこと、があげられる。他方、歴史研究分野などでは、アルヒーフへのアクセスなどで地元であることの優位性があるため、レベルは相対的には高い。同様に地の利が生かせるフィールドワークや統計的調査を中心とした社会学等の分野もある程度のレベルにあり、有用である。

2.4. 書籍検索について

上智大学ホームページ>情報検索の順でクリックすると、データベース一覧が出る。その中で、論文検索に有用なのは、①上智大学 OPAC（所蔵資料検索）、②Cinii Books（大学図書館の本を探す）、③NDL-OPAC（国立国会図書館）、である。いずれも、キーワードで検索する。

3. 研究文献は日本語と英語、史料・資料はロシア語

論文・レポートに際して参考にする先行研究は、ロシアの学問水準から見て、政治・経済分野では、まずは日本語と英語の文献を参照することが重要であり、ロシア語の文献については、補助的なものであってよい。むしろ、ロシア語文献は、法令などの規範文書、議会議事録、プーチンなどの政治家の演説や発言（大統領教書演説なども）など、資料として読むべきものが多い。ロシア語学科の学生である以上、4年次の卒論・ゼミ論では、ぜひロシア語の資料を1つでもよいかから利用したい。

4. 教員の知識と蔵書、図書館4階ロシア語研究室の利用

まずは教員に聞く（メールが望ましい）。教員の研究室を訪ねる。教員は知識の宝庫である。図書館4階のロシア語研究室には日本語の文献はたいていそろっている。

RUSSIAN POLITICS / UENO'S SEMINAR の参考文献のチェックをしてみよう。